

NPO龍ヶ崎建物保存会 {略称} 広報誌

発行人 NPO法人龍ヶ崎の価値ある建造物を
保存する市民の会 代表 前田享史

お問合せ 080-6637-1950

Eメール info@maeda.main.jp

ほぞん通信 第4号

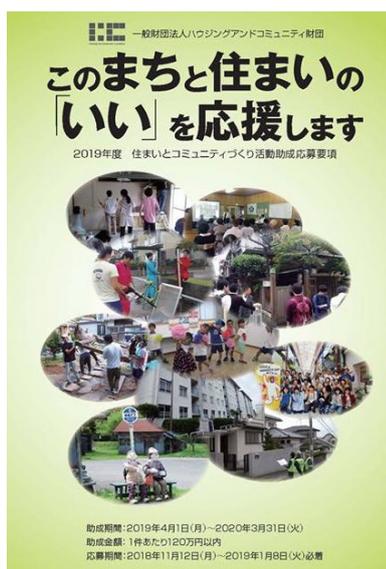
「祝！ハウジングアンドコミュニティ財団助成金」獲得

龍ヶ崎市市民活動センター センター長 田沼信之

昨年10月、一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団から2019年度「住まいとコミュニティづくり活動助成応募要項」が龍ヶ崎市市民活動センターに届いた。タイトルはこのまちと住まいの「いい」を応援します・応募期限は今年の1月8日(日)だった。対象となる団体及び活動に地域・コミュニティ活動助成が含まれていた。keywordは歴史的建造物、街並みの景観向上、文化の掘り起こし、居場所づくり、地域コミュニティ・まちづくり活動。

追加10部の送付を財団に要請し龍ヶ崎のまちづくり市民活動団体のいくつかを紹介した。素早く取り組んだのがNPO法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会。私のメール受信控えでは12月末に一次原稿が仕上がっていた。仲間からの修正案も1月早々に提出された。内容は「竹内農場西洋館の冊子づくり」。市民活動としての助成活動にふさわしい「実現可能で具体的活動」だと感じた。私の直感でこれはいけるかも・を記憶している。応募後、財団から具体的な説明の要請が届いたとのこと。2年前に「子どもゆめ基金助成事業」を獲得した龍ヶ崎市市民活動センターの応募プロセスを思い出した。大丈夫！すぐさま東京(財団事務局)を訪問したことを聞かされた。熱意が財団に届いた。財団とNPOが共有したのは、竹内明太郎。世界のブルドーザー/コマツの創業者、宰相吉田茂の兄。熱意が運を引き寄せた。16倍の難関をみごと突破。協定書を調印。活動がスタートした。その後、財団主催の地域交流会が金沢で開催される次の近代工業と早稲田大学理工学部の創設を先導したコマツの創業者・明太郎が龍ヶ崎の竹内農場西洋館で近代農業の経営に携わっていたと現在の活動内容を紹介。仰天！新しい事実が共有された。日ごろの努力が運を引き寄せた。運が更なる目標を生み出した。まさか・・・。

これからは夢の実現に向け一歩一歩、市民活動日本一を目指す龍ヶ崎市市民活動団体のトップランナーとして、活躍していただきたいと思います。喝采！おめでとうございました。



ハウジングアンドコミュニティ財団 地域交流会IN金沢

5月25日(土)今回のイベントが行われた「金沢学生のまち市民交流館」は、大正5年(1916年)に建てられた歴史的価値の高い「日佐野家住宅」(市指定保存建造物)を上手に残しながらリノベーションされており、外観・内観ともに素敵でした。

参加者は「地域・コミュニティ活動助成」を受ける11団体のほか、学識者や地元の市民団体など80人。

第1部、基調講演はNPO法人金沢町屋研究会理事長川上光彦さんに、金沢のまちの成り立ちや金沢のまちづくりについてお話しいただきました。

基調講演の次に、「地域・コミュニティ活動助成」団体の活動紹介があり、「復興・地域おこし」「コミュニティ・里山保存」「伝統的建造物を生かした地域づくり」の3テーマに分けて全11団体がそれぞれが7分間で活動報告を行いました。活動報告をする団体に女性が多いことや若さバイタリティーに刺激を受けました。当NPO法人も世代交代が必要かと・・・

私は8番目に現状の活動や竹内農場西洋館について7分間に纏めてお話ししました。

2部は、金沢のまち歩き。金沢町屋研究会の案内でイベントに参加された方々と一緒に金沢の中心部、大工町、堅町といった、普段観光客が訪れない、市民の生活が息づいている中に、武家屋敷や商家が点在している通りを案内されました。まさに、江戸時代の地図が現在もそのまま使える貴重なまち並となっています。

そして夜の部の懇親会は近くの伝統的建造物を生かした飲食店で行われ、約30名ほどの方が参加されました。和気あいあいとした雰囲気の中、大学教授や学生、市民団体の方々、ハウジングアンドコミュニティ財団の方と親しくお話をすることが出来ました。

前田享史



